

29F-am03

スルホンフタレインを母核とする機能性分子の開発

○中村 美和¹, 東 恵理子¹, 倉持 幸司¹, 今村 洋子², 川端 猛夫², 椿 一典²
(¹京府大院生命環境, ²京大化研)

【緒言】当研究室では生体内ポリアミン類であるスペルミジン、スペルミンを標的とした定量法の開発を行っている。今までにフェノールフタレインを母核とした Host 1, 2 を開発している。今回、母核をスルホンフタレインとする Host 3 を合成し、その機能を評価した。

【合成・評価】化合物 4 を *n*-BuLi で処理し、スルホ安息香酸無水物と反応させ中間体 5 を得た。次いで、Pd(PPh₃)₄、NaBH₄ を用いて還元的に脱アリル化を行い、Host 3 の合成を達成した (Scheme 1)。Host 3 は既存の Host 1, 2 よりもスペルミジン、スペルミンに対する感度が大きく向上していることが判った (Figure 1)。

